

# 「未来をになう長浜っ子」育成プロジェクト 第1回ワーキング会議 議事要点録

I 日時 令和元年5月21日(火) 15時15分～17時00分

II 場所 長浜市役所本庁舎 3階 3-B コミュニティールーム

III 出席者 板山教育長 清水香奈委員 伏木和雅委員 水上真哉委員  
三宅諒委員 池戸里江子委員 沢村志穂委員 落合明優委員  
藤井朋之委員 鈴木梨紗委員 大橋良平委員 藤田淳子委員  
大窪景子委員 嘉瀬井弘美委員 雀部敬人委員 教野直子委員  
【事務局】米田教育部長、横尾教育委員会事務局次長、伊藤教育指導課長  
河瀬副参事、山岡主幹、三輪主幹、長屋主幹

## IV 内容

### 1 開会 教育長より開会のあいさつ。

- 今、教育の大きな変革期を迎えている。2021年から始まる大学入学共通テストや全国学力学習状況調査の問題から、これから求められる力がどういったものかが見えてくる。
- 私が危機感を覚えたのは、このような流れの中にあるにもかかわらず、長浜市の小中学校では、時代の流れを敏感に感じ取って教育が行われているのだろうかということだ。
- 一斉型、一律型の我々が慣れ親しんできた教育がもう通用しなくなっているのも事実であり、これにどう立ち向かっていくか、長浜の子だけが取り残され、将来社会に出て交わっていくときに大丈夫だろうか、時代に必要な学力を保障してきました、と胸を張っていえるのだろうか。
- ICT もしかりだ。遅ればせの感もあるが、早急に予算も確保しながら、整備を今年度から小中で始めている。教室があつて、黒板があつて、チョークや教科書を使って一斉指導型の授業スタイル、もちろん必要な場合もあるだろうが、それだけで今の子どもたちに多角的、多面的な思考を育てていくのは困難ではないか。新しいスタイルをつくらなければ時代の要請に応じた能力は身につかないと思う。
- もちろん、基礎・基本も大事だ。基礎・基本をどういう風に定着させていくのか、それにプラスして21世紀に生きていくのに必要な能力や資質を子どもたちにどのようにつけさせていくのか、それを測る指標をどこにおくのか。現場で子どもたちに直面している委員の皆さんが、議論をして方策を考えてこういう思考ができる、こういう思考に慣れて、自分の考えが言える、といった時代の流れの中で太刀打ちできる長浜の子を育てていかなければならない。
- そして、皆さんで決めたことを、いろいろな立場の人たちにも示して、「現場の若い先生はこう考えている。皆さんどう思いますか」と意見を請う。こうしたことを繰り返す中で、ぼんやりとでも形ができてきたらこれに勝るものはない。
- 1年かかろうが、2年かかろうが土を耕さなければ、芽は出ない。道のりは厳しいが、子どもたちにもっと勉強をしたいと思わせるのは私たちだ。何よりも皆さんや皆さんと現場で苦楽を共にしている先生方だ。どうか、忌憚のない意見を戦わせ、徹底的に話し合っ、前に少しでも光が見えるなら、それに向かって進んでいこうということだ。それが子どもたちに還元されていく、このことが本プロジェクト、本ワーキング会議に対して私が期待することである。

2 就任依頼状交付 ワーキング会議委員に対して教育長より就任依頼状を手交。

3 プロジェクト概要説明 事務局より資料にもとづき説明。

4 グループ協議 A、B、Cの3グループに分かれてグループ協議。

テーマ① 「これからの社会」に求められる力（中学卒業時点までにつけたい力）は何か。

テーマ② ①の力を育むための具体的な取組とは何か。

5 全体共有 各グループのまとめを発表し、全体で共有。

□：テーマ①についての意見 ■：テーマ②についての意見

【Cグループ】

- はじめにICTの活用が出た。電子媒体を使いこなしていく力が必要。自分の思うように効果的に使っていくとともに、得た情報を切り取り、つないで使う力も必要。
- 企業とタイアップして取り組めると面白い。まず、教師が研修を受けて、より使いこなせるようにすること。まずは、学校の設備、環境を整えることが大事。
- プログラミングにも関わるが、ゴールを設定してそこに至るために見通しをつける力も必要。
- どれがよくて、どれがよくないかを見分ける判断力も必要。自分で選んでいける力も必要。
- スマホの研修等も受けるが、その時点で生徒のほうが進んでいる。タイムリーな教員研修が必要。
- 表現力 自分が考えたことを形にして言えたり、発信したりする力。
- 自分の立場をはっきりさせて自分の意見を言う経験。
- 表現力のもとになる豊かな発想。長浜市から日本、世界へと視野を広げる。未来を生き抜くアイデア（知恵）を生み出せる力。
- 地域の伝統、産業、人とのふれあい、読書、様々な意見にふれる機会。
- 他の人に伝えるコミュニケーションの力。さらに集団の中で自分の意見が言えること。
- グループなど集団の中で自分の意見を交流させる経験。
- 人と関わる上で大事な 思いやり、心。
- 意思疎通できる力、相手のことを考え、行動できる力。
- 自分の個性を認識して、短所を強みにかえていける力。
- 人のいいところを見つける取組、人から認めてもらう経験。
- ベースとしての基礎知識も必要。

【Bグループ】

- ベースとしての人との関わり、人としての部分を一番大事にしたいと考えた。
- 思いやり、人の気持ちを推し量る力。
- コミュニケーションの力。
- 自分で考えて行動したり、表現したりする力。
- 学力をつけることで自分で善悪を判断する力。
- 未来社会に順応していくICT活用の力。
- コミュニケーション力。
- 授業形態の工夫 ペアやグループ活動など小さい学年から積み上げていく。
- 幼小中高の連携。
- 他校との交流 小規模校が多いので。
- 特別活動の時間の活用 子どもたち同士が折り合いをつけながら意見を交わし、考え

ていく。

- 保護者、地域との連携。
- 学力。
- 教師力の向上。魅力ある授業づくり。若手教員が刺激し合う研修。
- 長浜市で統一した取組があれば。教科担任制等も。
- 判断力。
- 自己選択（自己決定）の機会を増やす。
- 思考力、表現力。
- 豊富な体験。
- カリキュラムの工夫でじっくり取り組める時間の確保。
- ICTの活用。
- 他市に比べてずいぶん遅れている。機器の充実の必要。

#### 【Aグループ】

- 各自で自己決定していく力。
- メリハリをつける力。時には休むという選択もできる。
- いろいろな表現の力。
- 情報の収集、選択、活用力。
- 人と関わる力。一人では解決できないこともかかわりを通して解決、成長。
- メンタル、気持ちの面で忍耐力が必要。
- 特に表現力の育成が大事と考えた。
- スピーチなど話す・聞くの体験。
- 子ども新聞などの活用。新聞の無償配布？。
- 小学生から職場体験。大人の働く姿を見て将来を考える機会を。
- 自分で考える、自己決定の時間の設定。めあて、ルール作りも自分たちで考える。
- 人とのかかわりの中で考え、表現する。

#### 6 振り返り・まとめ 今日会議のハイライト映像・ペアによる振り返り

視点① ワーキング前後の気持ちの変容。

視点② 今回のワーキングでの気づき・発見。次回に向けて。

#### 7 事務連絡 事務局より先進地視察研修希望調査について連絡。

#### 8 閉会 教育指導課長より閉会のあいさつ。

- 皆さんの熱い思いが伝わってきて、楽しい時間を一緒に過ごすことができました。
- その中で頭に浮かんだのは「人財」という言葉。材ではなく、財ということ。お一人おひとりが持っておられる力がもっと引き出せ、輝かせることができるのではないかと、教育委員会としての責任も感じた。
- 皆さんの思いが生かせ、輝かせることが子どもの未来を担う力を育てることになる。遠慮なくどんどん意見を出し合っていたきたい。この世代にかかっていると思っている。次回の開催が楽しみである。
- 教育委員会では本年を教育改革元年と考えている。そのスタートが今日だと思う。現場の教員、教育委員会と一緒に長浜の教育を高めていきたい。今後ともよろしくお願いします。